

韓国と日本のジャーナリズムの 今を考える



相澤冬樹氏講演

日本のマスメディアの現状
—NHK を辞めた
森友スcoop記者が語る—

韓国ドキュメンタリー映画 「共犯者たち」上映

韓国で、メディアの存在意義をかけたジャーナリストたちの10年間の闘いのドキュメンタリー映画「共犯者たち」。

一方、2018年日本、ひとりのNHK記者が退職した。森友事件をスcoopし報道局長賞を受けた直後、記者を外され非制作部門に異動させられた。取材できなくなることに最大の苦痛を感じ31年間務めたNHKを辞めたその人が「安倍官邸 vs. NHK 森友事件をスcoopした私が辞めた理由(わけ)」の著者、相澤冬樹氏。

韓国・日本ともに時の政権にむしばまれるマスメディアの姿。映画と講演を通してジャーナリズムの今を考える。

5月25日(土) 午後6時15分～(午後6時開場)

会場：武蔵野スイングホール
(武蔵野市境 2-14-1 スイングビル 2 F JR 中央線武蔵境駅 徒歩 2 分)
入場料金：1000 円 (高校生以下無料)
主催：むさしの憲法市民フォーラム
入場券申し込み・連絡先：電話・FAX 0422-46-7614 (西村)





相澤冬樹氏

1987年NHKに記者職で入局。

2016年大阪局で司法キャップ。

2017年森友事件スクープ。

2018年NHKを退職。同年9月より大阪日日新聞へ。

「森友事件は森友学園の事件ではない。国と大阪府の事件である。こういう違和感を持つ方が多いかもしれないが、おかしいことをしたのは森友学園ではなく、むしろ国と大阪府の方だ。それを読者・視聴者に説明するのが私たち記者の務めだ。(中略) 森友事件の報道の背景で何が起きていたのか、森友事件の真の問題点は何かを明らかにしたいと思う。

(「安倍官邸VS. NHK-森友事件をスクープした私が辞めた理由(わけ)」より)

映画「共犯者たち」

MBCを不当解雇されたチェ・スンホ氏自らが監督。

記者が黙った、国が壊れた—主犯は大統領、

共犯者は権力におもねる放送人

李明博と朴槿恵、長期保守政権による言論弾圧の実態

李明博政権は、メディアへの露骨な政治介入を始める。狙われたのは放送局KBSとMBC。調査報道チームは解散、記者たちは非制作部門へと追われた。両局の労働組合はストライキで対抗するが、政権が送り込んだ経営陣によって解雇や懲戒処分が濫発された。

メディアの存在価値をかけたジャーナリストたちの闘い

しかし、それでも諦めないジャーナリストたちがいた。局内に残った記者たちは、さらに激しいストライキに突入。一方、不当解雇されたチェ・スンホ監督たちは市民支援で立ち上げた独立メディア「ニュース打破」で調査報道を継続。言論弾圧の「主犯」である大統領と、権力に迎合して韓国の報道を骨抜きにした放送業界内の「共犯者たち」をカメラの前に立たせ、その実態と構造を明らかにしていく。



©KCIJ Newstapa

「むさしの憲法市民フォーラム」は、1997年以来、毎年5月に市民の手づくりによる憲法記念行事を企画・実行してきたグループです。また、政治や社会の情勢に合わせ、憲法に関わる学習会やニュースの発行など様々な取り組みを行っています。

安倍政権による改憲の動きが強まっています。十分な議論も行わずに、雰囲気だけで改憲を行おうとする危険な流れに対して、市民一人ひとり、国民一人ひとりが、しっかりと憲法への意識を持っていくことが大切です。私たちは武蔵野から声を上げ、憲法改悪に反対する活動を広く展開していきます。

いまの日本は、民主主義や人権そのものが危機的状況なのではないでしょうか。知る権利や報道の自由は大丈夫でしょうか。

今回の映画「共犯者たち」上映と相澤氏講演会で、メディアの現状を韓国と日本を比較しながら皆さんとともに考えてみたいと思います。